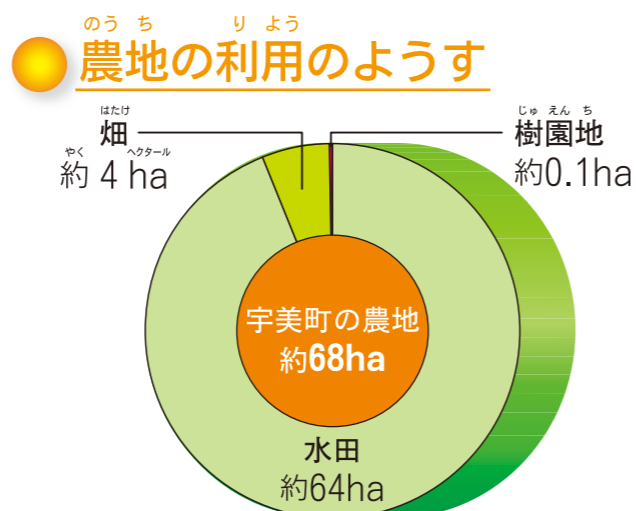


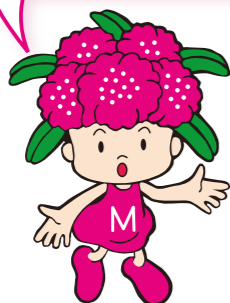


稲刈り前の水田(宇美小付近)



資料：農林業センサス平成27年度

宇美町では、どこで、どんな作物が作られているのか、みんなで調べてみましょう。



家の近くにも畑があるけど、見たことがない葉っぱが生えているぞ。何を作っているのかな。



2 宇美町の農業

(1) 宇美町の農業のようす

わたしたちの住んでいる宇美町は、東側、南側に山が連なっています。その山々から流れる川の水は、福岡平野に続く平地を潤して、広い水田をつくり出しています。また、山地から平地に続く丘陵地は、主に野菜をつくる畑として利用されています。

しかし、最近では、高齢化により、農業をする人が減り、農地も住宅地などに変わってきています。

宇美町の農家では、どのような作物を、どんな工夫や努力をしながら作っているのでしょうか。

藤木さんの米作り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
夢つくし (準早期米)	種まき	しろかき	田植え	水の管理 農薬	追肥	稲刈り	乾燥 もみすり	出荷
元気つくし (普通期米)		田おこし	種まき	しろかき	田植え	水の管理 農薬	追肥	稲刈り

この田んぼは、10月から2月までケールを作っています。

藤木さんは、準早期米と普通期米を栽培する田を使い分けることにより、一年を通じて農業に従事できる工夫をしています。

① 主な農産物

ア 米づくり

宇美町の農地の約94%は水田で、米づくりが中心です。ほとんどの農家では、病気や天候に強く、味もよい「夢つくし」や「ヒノヒカリ」、「元気つくし」といった品種の米を生産しています。また、農家の人は、採り入れ時期を早める「早場米」をつくるなど、消費者に喜ばれる米づくりを進めています。

藤木さんの話

わたしの田では、田植えの時期が異なる「夢つくし」や「元気つくし」を作っています。米づくりは天候に左右されるので大変です。台風が来たり、猛暑が続いたりすると、収穫が減ったり品質が落ちたりします。

また、米づくりができなくなった人に頼まれて、作る人のいない田でも米を作るようになりました。田植えや稲刈りのときは、家族や親戚で協力して仕事をしています。さらに最近では農地周辺の住宅化により、農薬の散布や草刈りなど周辺の方に迷惑がかからないように注意して作業しています。



ビニールハウスで育ったトマト



ビニールハウス



生育のようすを確認する安河内さん



自動で水や肥料を制御する機械

イ 野菜づくり

宇美町は、農地の約6%が畑です。

狭い畑と転作田を利用して、ブロッコリー、しゅんぎく、はくさい、大根、たまねぎ、きゅうり、なす、トマトなど、いろいろな野菜を生産しています。

安河内さんは、4棟のビニールハウスでトマトなどの野菜を作っています。消費者の好みを考えて、甘さと酸味のバランスの良い「甘っこ」というミニトマトと直径5cmくらいの中玉トマト「フルティカ」の2種類を栽培しています。

転作田というのは、どんな田んぼのことかな？ どうして、田んぼがあるのに、お米を作らないのかな？



おいしくて質の良いトマトがたくさん収穫できるように、温度や水やりに気をつけています。病害虫を防ぐには消毒が必要ですが、できるだけ農薬を使わないように工夫しています。

冬は10℃以下にならないようにビニールを二重にするそうだよ。野菜を育てる工夫や努力は他にもあるのかな。



安河内さんの話

息子と一緒に米や野菜を作っています。ビニールハウスでは、トマトとアスパラガスを栽培しています。ビニールハウスに白い布をかけて、温度が高くなりすぎないように調節することで、トマトの収穫の時期を長くする工夫を行いました。

県外の農家を視察に行くなどして、技術力をあげて、もっとたくさんの野菜をつくりたいと思っています。



安河内さん



ふれあいの里
(JA粕屋南部プラザ)



②地産地消

宇美町では消費者へ地元で採れた新鮮で安全・安心な農作物の提供を進めています。

このごろ、新聞やニュースで「スローフード」や「自然循環型農業」という言葉がよく使われるね。消費者の好みはさまざままで、どんどん変化しているんだね。それに対応していく農家の人は大変だな。



近くにあるJA粕屋南部プラザ(志免町田富)では農作物の直売所を設け、宇美町やその近郊で栽培されたいろいろな野菜が並び、たくさんのお客さんでにぎわっています。

また、親子で参加できる農作物の収穫体験会など地産地消に結びつく交流事業も行っています。

さらに宇美町で栽培された米や野菜は、学校給食の食材の一部として使われています。



トラクター
(農地を耕す機械)

田植機

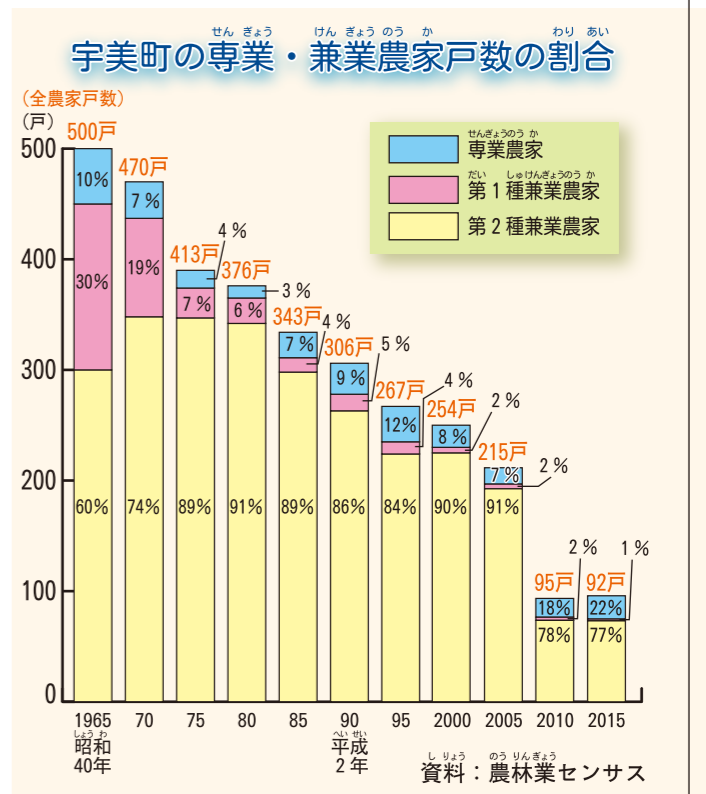
コンバイン
(稲を刈る機械)

③機械化が進む農業

農家では、トラクター、田植機、コンバインなど機械化が進み、人手を省いて仕事が短時間でできるようになりました。しかし、農機具が高価なことや、人手不足のため、よその農家やJAに農作業をお願いしているところもあります。

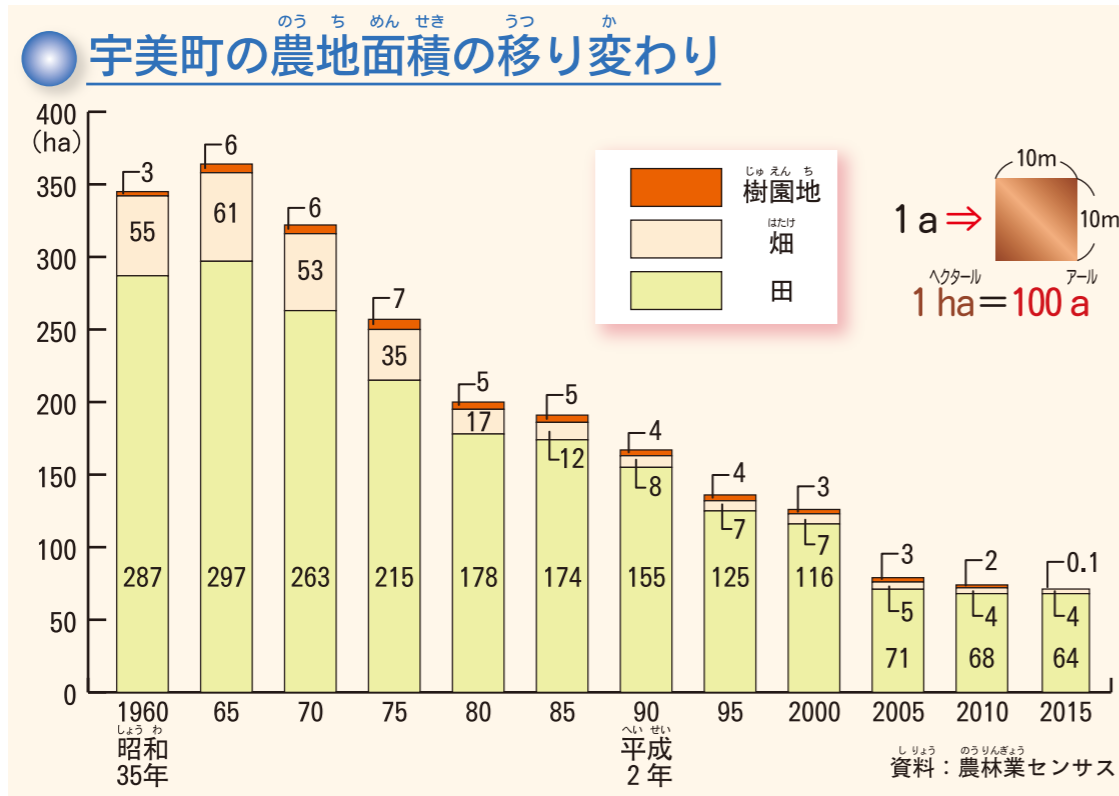
④農家の戸数

宇美町の農家戸数は2015年(平成27年)には、宇美町全戸数の0.6%にあたる92戸まで減りました。専業農家よりも兼業農家の方が断然多く、働く人の年齢が高いのは、全国的な傾向です。



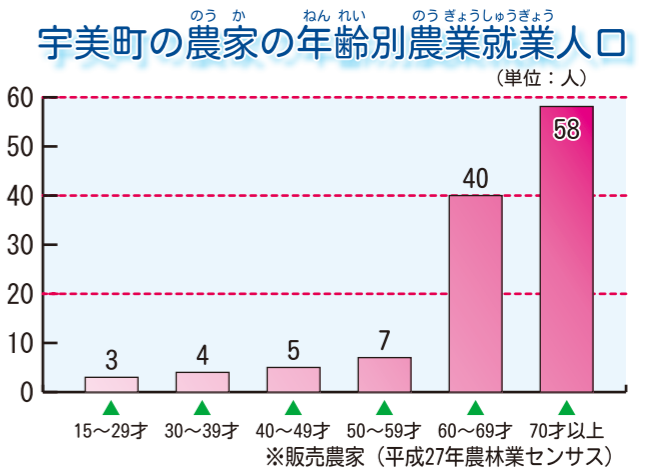
(2) 宇美町の農業の課題

宇美村が生まれた1889年（明治22年）のころは、500haを耕す純農村でした。ところが、2015年（平成27年）の農地面積は、68haまで減少しています。

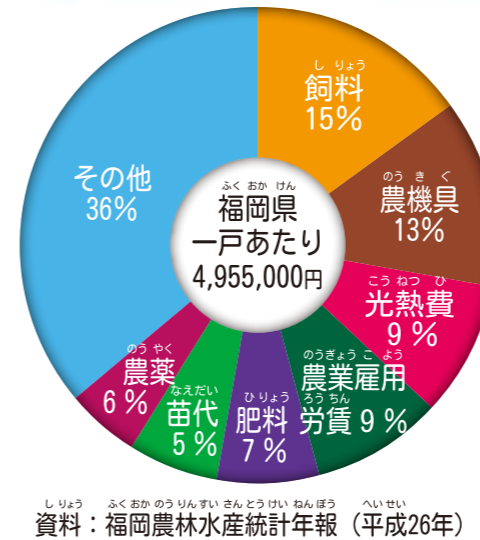


宇美町の農家1戸当たりの農地面積は、39aと狭くなっています。また、福岡市に近いため、今後ますます都市化が進み、農地が住宅地や工場用地、商店用地などに換えられて、減っていく傾向が強まると考えられます。良い品質の作物をつくるための田畑の改良工事や新しい機械の購入などに費用がかかったり、肥料代や飼料代が高かったりするなどの悩みもあります。

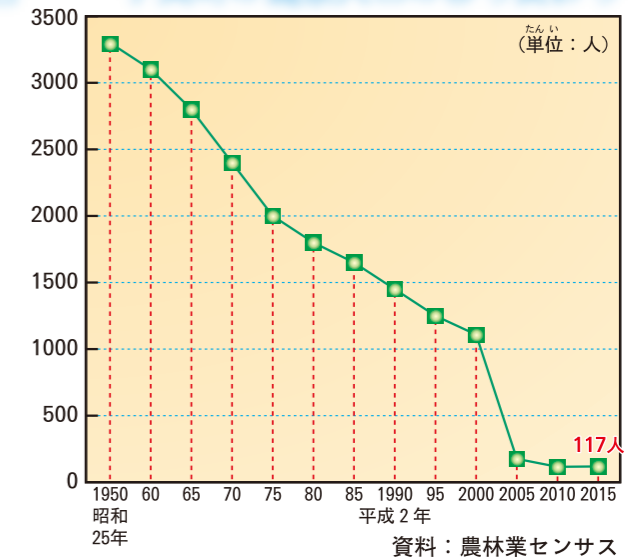
農家の年齢別の農業就業人口を見ても分かるように、農業の後継ぎとなる若い人が減ってきています。



農業経営費における主要費目割合



宇美町の農家人口の移り変わり



さらに、生産した米が余ってしまうため全国で米の生産調整が行われ、農業に大きな影響を与えています。

しかし、米を中心とした農業がこれからも大変重要な産業であることには変わりありません。そこで、宇美町でも、農業生産力を高めるために農業の担い手を育てること、狭い土地でも高収益をあげることができる作物の普及に取り組んでいます。